

令和 七 年度 (A日程)

四天王寺東中学校入学試験問題

国語

注意 答はすべて解答用紙に書きなさい。
句読点、記号も一字に数えます。

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

建築は具体的にどのような要素から成り立っているのか。建築を構想し、つくる建築家は、どのような視点に立って設計をおこなっているのか。こうしたことを紹介しながら、みなさんがより主体的に建築に関わるための X いくつかの入り口を共有していきます。

まずは、建築に関する言葉の定義を整理しておきましょう。

僕はここまで、「建築」や「空間」という言葉を特に定義せずに使ってきましたが、これらの言葉の意味を改めて考えてみたいと思います。考えたいのは、①「建築」と「建物」、「空間」と「場所」の違いです。

そんなことは意識したことがないという人が多いかもしれませんが、「建築」と「建物」は同じようで、同じものではありません。

「建物」は、物質としての建物そのもののことです。一方で「建築」は、ある価値を実現するために A 意図をもつてつくられた建物、あるいはそうした意図によって * 顕在化する考え方のことです。

意図を込めるのは建築をつくる建築家や職人であったり、発注する * クライアントであったりしますが、その意図を読み取るのはユーザーである住人になります。建築と人間は常にセットとしてあり、この建築の意図を交換することによって建築というもの存在しています。建築は人間の意図を伝達する媒体 ばいたい なのです。だから建築はモノであると同時に考え方でもあるということです。

② 建築は、そこに住む人の日々の B 営みの記憶が蓄積されるものでもあります。そのため、建築とは「記憶の器」である、とも言うことができるでしょう。

「空間」と「場所」についてはどうでしょうか。「空間」は簡単に言うと、主体である人間のまわりを包み込むようにあるもので、それを人間が知覚することで成立します。人間が生きているあいだ、空間は常にその人にまわりついています。人間が中心にあるもので、「ここからここまでが空間だよ」というふうに客観的な線引きをすることは困難です。人間がいることではじめて空間が立ち上がるのです。

③ 「場所」とは、単位として二次元で計測するものです（緯度・経度）。X 軸と Y 軸の C ザビヨウ上の点のように二次元で示すことができるため、人間が不在でも成り立ちます。人がいなくても「○丁目○番地」と指し示すことができる「住所」が、これにあたります。

④ 言葉を定義してみると、建築とは何かが少しずつ具体的に考えられるよう

になります。目に見えない「意図」や「価値」といった考え方が、人間を通して物質としての建物と結びつくことで、そこに意味が生まれ、「建築」や「空間」が立ち上がる。つまり建築は、「人間を主役とした器」なのです。

では、人間を主役とした器である建築とは、どのような要素から成り立っているのでしょうか。

ここでは、建築の古典と呼ばれる本を紐解いてみます。現存するヨーロッパ最古の建築書に、紀元前一世紀に活動したローマの建築家ウィトルウィウスが著した『建築書』という本があります。

この本の中でウィトルウィウスは、建築には⑤「用・強・美」という三つの根本的な側面があると言っています。

【中略】

建築をつくるにあたっては、それが何をするための建築なのか、その用途を成立させるためにはどのような構造や強度をもたせるのか、それを美しくつくるにはどうすればよいのかを考えなければならない。用・強・美をいかにDアミ込んでいくのが、建築家が建築をつくるときに解決しなければならないことであると、ウィトルウィウスは言っています。

ウィトルウィウスは二〇〇〇年も前のローマの建築家ですが、彼の述べていることは、現代の建築にそのまま通ずる重みがあります。

僕は、この用・強・美という三つの側面があることが、建築のおもしろさだと感じています。どういうことかと言うと、建築には⑥「科学」に属している部分と、「芸術」に属している部分の両方があるということです。

科学に属しているのは「用」と「強」の側面です。科学の命題はEハンプク性や再現性があること。科学は、誰がどう計算しても、まったく同じ答えが出ることを求めます。

まず「強」についてはわかりやすいでしょう。建築における強度の計算(構造計算)は、科学的なルールに則って厳密におこなわれます。「この太さのヒノキの柱は、どれだけの荷重を支え得るか」「柱と柱のあいだが二メートルのとき、杉材の梁の太さはどのくらい必要か」。こうした計算は、ドイツで計算しても、日本で計算しても、結果は同じです。地球の重力を考慮し、それを根拠にして計算するからそうなります。

では「用」はどうでしょうか。ここでは人間の「身体機能」から考えてみましょう。二足歩行をする。ごはんを食べる。*排泄する。こうした基本的な身体機能は、たとえ国が違ってそれほど変わりません。ですから、ある程度科学的に検証することができず。たとえば排泄というトイレの用途は、アルゼンチンでも、日本でも同じです。

一方で、「美」についてはどうか。「美」は ⑦ の世界に属するものです。何を美しいと感じるかは、人によって異なり、美しさの基準は曖昧なもの。一方で、たとえば自然のように誰にとつても美しいと感じられるものもあります。海も山も、森も川も、雲も雪も、雨も木も、美しい。だから、⑧ 私たちは何かをつくるとき、意識的にも無意識的にも、自然をお手本としたり * 模倣したりします。

建築の美において中心的な役割を果たしているのは、自然の光の存在です。さきほど空間という言葉を定義する際に「人間が知覚することで成立」と述べましたが、太陽の光が建築を照らし出すことで、空間が立ち上がるのです。美しさは光によって導かれる。太陽という自然の恵みなのです。建築が「光の彫刻」と言われるのは、そのためです。

また、芸術の世界においては、人と違うことが唯一の価値をもつという側面もあります。ですので、ハンプクして同じことを確認する科学と違って、「美」はもつと感覚的で自由な価値観の中にあるのです。言い換えると、頭で ⑨ 的に科学して、心で ⑩ 的に芸術するとも、とらえられるかもしれませんが。

このように科学である「用」と「強」、そして芸術である「美」をどのように組み合わせさせていくか。ここに設計者としての考え方が表れるのです。使い手としても、この建物はどのような用途が意図されているのか、どのような構造によって成立しているのか、どういう美が表現されているのか、という切り口から建築を見ることが自分なりに建築を読み取ることができます。そしてこの用・強・美の側面から見ていくことで、自身の建築に対する読み取り方を常に * アップデートすることができるのです。

(光嶋裕介『こちよさの建築』より一部改)

(注)

*頭在化…はつきりと形になって表れてくること。

*クライアント…お客さん。依頼主。

*排泄…大便や小便を体の外に出すこと。

*模倣…まねること。

*アップデート…新しいものに置き換えること。

問1 〳線A〵Eの漢字は読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に直しなさい。

問2 — 線①「『建築』と『建物』、『空間』と『場所』の違い」の説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「建築」と「建物」は同じような意味で使用できるが、「空間」と「場所」ははっきりと異なっている。

イ 「建物」と「空間」は人間が意図をもって作り上げるものだが、「建築」と「場所」は自然に存在している。

ウ 「建築」と「空間」は人間の存在があつて成り立つものだが、「建物」と「場所」は人間がいなくても成り立つ。

エ 「建築」と「場所」は数字によって計測することが可能だが、「建物」と「空間」は人によって異なるものである。

問3 ② ④ に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ②けれども ③さらに ④ただし

イ ②なぜなら ③つまり ④あるいは

ウ ②また ③これに対し ④このように

エ ②しかし ③たとえば ④これに加えて

問4 — 線⑤「『用・強・美』という三つの根本的な側面」のうち、「用」について説明した次の文の に入る言葉を六字で本文中からぬき出しなさい。

【建築における「用」とは、その建築は のものかという側面である。】

問5 — 線⑥「『科学』に属している部分」の説明をした次の文の に入る言葉を八字で本文中からぬき出しなさい。

【国や人が違っても が得られること。】

問6 ⑦ に入れるのに適当な語を二字で本文中からぬき出しなさい。

問7 — 線⑧「私たちは何かをつくるとき、意識的にも無意識的にも、自然をお手本としたり模倣したりします」とありますが、それはなぜですか。十五字以上二十字以内で説明しなさい。

問 8

⑨

⑩

記号で答えなさい。

- ア ⑨ 理性・⑩ 感性
- イ ⑨ 主体・⑩ 客観
- ウ ⑨ 現実・⑩ 自由
- エ ⑨ 受動・⑩ 能動

問 9 ー線 X 「いくつかの入り口」として適当でないものを、次から一つ選び、記号

で答えなさい。

- ア 「建築」と「建物」の違い
- イ 「空間」と「場所」の違い
- ウ 用・強・美の三要素
- エ 太陽と自然の恵み

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

高校一年生の楓は、家の近くの弓道会に入門し、道場の弓具を借りて練習していた。その後、周囲の勧めもあり、自分の道具を購入したのでお金を出してほしいと母親に頼んだが、「本当に弓道が続ける自信があるのか」と反対されてしまう。

しかし、結局弓具は買ってもらえることになった。話を聞いた父方の祖母が、楓の味方をしたのだ。

「確かにね、続けられるかどうかなんて、いまはわからない。だけど、私は楓に弓道が続けてほしいと思うんだよ。道とつくものは普通の楽しみとは違う、それこそ一生続けられるたしなみだからね。私自身も茶道を長年続けてきたことが自分の財産だと思っているし、楓にも①そういうものをひとつ持つてほしいと思うの。そのために必要な道具だったら、私が出してあげる。A たとえ一年二年しか続かなく」、ちゃんとした道具でお稽古するのはとても大事だし」

祖母はそんなふうに母を説得した、と楓はあとから聞いた。② だが、それに続く言葉を、母は楓には伝えようとはしなかった。

「自分がほんとうに気に入った道具を持っていれば、一時的に弓道を離れたとしても、また戻ってこようと思うきっかけにもなる。流行に関係ない、何年も使えるものを自分

で所有するってことは、それだけの重さを背負うということにもなるんだよ」

なんとなく楓にへんなプレッシャーを与える気がしたし、祖母の言うことが、母自身にはぴんとこなかったからだ。

ともあれ、祖母が弓具代は出す、と言ったので、両親に反対する理由はなかった。

「おばあちゃん、ありがとう！」

両親に言われて、お礼かたがたお金を受け取りに、祖母の家まで出掛けて行った。楓たちの住む駅と同じ路線にあるが、もつと都心寄りの駅だ。駅からは徒歩一五分ほど、閑静な住宅街にある古い木造家屋だった。大きい家ではないが、家の中はもちろん庭の隅々まで掃き清められ、雑然としたところは家中どこにもない。掃除や整頓があまり得意でない楓の母は、「ご立派すぎて行きづらい」と言って、あまり寄り付こうとしない。

楓と*大翔も、それで自然と訪ねる機会は少なかった。

「いやいや、おばあちゃんは楓が弓道続けることを応援したいからね。何をやるにも道具は大事だよ。安物を買うんじゃないよ。ちゃんと自分に合う、いいものを買いなさいね。お金はちゃんとあげるから」

「うん、わかった」

その日、祖母は着物を着ていた。藍色の地味な木綿の着物で、帯も簡単に着脱できそうな幅の狭いものだ。着物なのに普段着みたいだ、と楓は思った。それが薩摩絣という高級品だということは、着物に疎い楓は知らなかった。

「弓はまだいらなの？ なんならいっしょに買ってもいいんだよ」

「弓を買うのは初段を取ってからにする。みんなそうしてるみたいだし、まだ弓を引く形も安定してないから」

「そう、じゃあ楓が段を取るのを楽しみにしてるよ」

そうして祖母は、楓が頼んだ金額よりさらに上乗せした額を渡してくれた。

「こんなにたくさん」

「余ったら、お釣りを返してくれればいいよ。だけど、③安物買いはしないようにね」

そんな風に祖母に言われると、逆に無駄遣いはできない、と楓は思った。④初心者にはそれほど選ぶ余地はない。*カケと矢については上をみればキリがない。特注で自分に合う形に作ってもらったり、素材をグレードアップすればいくらでも高いものになる。さすがにそこまでの道具は必要ない、と楓は思った。下手なのに、変によい道具を持つているのは悪目立ちする。高級品はもっと上達してからでいい。

それで、みんなが使っているのと同じくらいの、一般的なカケと矢を購入した。カケは誂えたように手にびったり合ったし、真新しい本革は黄土色が艶やかでとても美しい。矢も矢羽根が焦げ茶色で、矢羽根を留める本矧の部分はきれいなブルー。シックで素敵だ、と思った。矢を入れる矢筒もいろんな色があつたのだが「あまり派手な色を選ぶと、嫌みを言う先輩もいるらしいよ」と*光に耳打ちされて、^B無難な紺のものを選んだ。

【中略】

「誰、こんなところにカケを置きっぱなしにしたのは？」

*前田が声をあげる。その視線の先には、床にだらしく転がった楓のカケがあつた。

「すみません、私のです」

楓が慌ててカケを拾いに行つた。休憩時間になつたので、いちはやくみんなにお茶を淹れなければ、と慌てたのだつた。

「カケは床には置かないのよ。そのために置き場もあるし、それが遠かつたらせめてテーブルの上に置きなさい。買ったばかりの新品でしょう？」

「はい、すみません」

「それに、外した紐はちゃんとカケに巻き付けて。ほら、こんな風にぐちゃぐちゃになつてるとだらしないうでしょう？」

「すみません」

⑤

、そういう楓の気持ちに表情に出ていたのかもしれない。前田は楓の目を見ながら、はつきりした言葉で語り掛ける。

「あのね、よけいなことかもしれないけれど、弓道をやっていると、その人の日頃の態度が見えてくるのよ。射そのものでもそうだけど、カケの扱いひとつとってもだらしなとか、雑だとか、細かいところに神経を配ってない、とかわかってしまうの。あなたは何か動作をやる時、全部やり終える前に視線がほかのところに移っている。意識が次に向いているの。だから、やるのが雑になるのね。せつかく弓道をやっているのだから、ひとつひとつ丁寧にやりなさい。そして、自分の道具はここを込めて扱うようになさい」

そう言われて、⑥楓は水を掛けられたようにハツとした。そんな風に言われたのは、初めてのことだった。ほかの人たちのカケを見た。ちゃんと紐を巻いてきれいに置いている人がほとんどだ。とくに女性の先輩たちはみんなきちんとしている。

ほかの道具の扱いも観察してみる。弓袋ゆみふくろをきれいに畳たたんでいるか。弦つるをきれいに巻き取っているか。着てきたコートやジャケット、持って来た荷物はどんなふうに置いているか。

ひとつひとつほかの人たちのやることを意識して見ると、自分がとても雑にものを扱っていたことに気がついた。練習に持ってくる手提げの中もぐちゃぐちゃだ。ふと、善美よしみを見ると、きちんと整理してものを詰めている。カケや弓の扱いも丁寧だ。同じ年なのに、借り物の道具なのに、扱い方が全然違っている。

楓は恥ずかしくなった。

みんなはいままで私のことをどう思っていたのだろう。若いからって、C 大目に見てもらっていたのかな。だけど、ちゃんと直さなければ、年を取ってもこのままだろう。

⑦ これからは気をつけよう。

楓はカケの紐を丁寧に巻き付けた。真新しいカケをきちんとカケ置き場に置くと、心なしか、艶つやを増したように見えた。

(碧野圭『凜として弓を引く』より)

(注)

*大翔…楓の弟。

*カケ…弓を引く際に右手を傷めないように手にはめる弓具。

*光…楓と同じ弓道場に通っている高校生。後の「善美」も同じ。

*前田…楓の通っている弓道場の指導者の一人。

問1 〓 線Aの空らんに入る言葉を、ひらがな二字で答えなさい。

問2 〓 線B・Cの言葉の意味として最も適当なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

れ記号で答えなさい。

B 「無難な」

A 地味で人気がない

イ 特別良くも悪くもない

ウ 他人と被らない

エ 見つけることが難しい

C 「大目に見て」

A きつく注意して

イ こっそり笑いものにして

ウ 気付かずに見逃して

エ きびしくは責めないで

問3 ― 線①「そういうもの」が指す内容を、本文中より十一字でぬき出しなさい。

問4 ― 線②「だが、それに続く言葉を、母は楓には伝えようとはしなかった」とありますが、なぜですか。理由として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たとえ短期間でもよい道具で稽古することは大事だという祖母の意見に、納得で
きなかったから。

イ 安くはない弓具代を祖母に出してもらったと知った楓が、祖母に遠慮えんりょするのでは
ないかと不安に思ったから。

ウ 長く所持できる良い道具を持つことの重大さを聞かされた楓が、圧力を感じるか
もしれないと心配したから。

エ 一時的に稽古をやめたとしても、将来必ずまた弓道に戻ってくるという祖母の決
めつけが不快だったから。

問5

③

・

④

に入れる言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次から一つ

選び、記号で答えなさい。

ア ③わざわざ ④やっぱり

イ ③くれぐれも ④そもそも

ウ ③くよくよと ④まさしく

エ ③そわそわと ④たまたま

問6 【中略】までの部分から読み取れる「祖母」の説明として適当でないものを次か
ら一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自身が長年茶道を続けてきた経験を大切にしており、孫の弓道の稽古も応援しよ
うとしている。

イ 細やかなところまで気を配る人物で、住まいを美しく保ち、高級な着物を自然に
着こなしている。

ウ 几帳面きちょうめんな性格で、家の中や庭が雑然ざつぜんとしていたことが許せず、大ざっぱな楓の母
とは反発しあっている。

エ 値段で道具を選ぶのではなく、お金をかけてでも自分に合った良い物を使うこと
が重要だと考えている。

問 7

⑤

に入れる言葉として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 前田さんはちよつとめんどくさいな

イ 前田さんはしっかりした先輩だな

ウ 前田さんとはとてもいい加減な人だな

エ 前田さんはやつぱり気配りができるな

問 8

——線⑥「楓は水を掛けられたようにハツとした」について、

(1) この部分に使われている表現技法として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 比喩 ひゆ

イ 擬人法 ぎじん

ウ 倒置法 とうち

エ 省略法

(2) このときの楓の気持ちを説明した次の文の空らんに入る言葉を、Xは五字、

Y

は十字で本文中よりぬき出し、Zは後のア～エから一つ選びなさい。

【前田から、楓の雑でだらしないカケの管理は、Xにも表れており、何をするにもYという自分の欠点を指摘され、Zの気持ちを抱いている。】

Z

ア 驚きと反省

イ 恥ずかしさと失望

ウ 衝撃と怒り しやうげき

エ いち立ちと後悔

問 9

——線⑦「これからは気をつけよう」とありますが、どういうことを「気をつけよう」と考えたのですか。「カケ」という言葉を使わずに、十五字以内で答えなさい。

三 次の□に入る漢字を、あとから選んで書きなさい。

① □ が立たない (意味) 力がおよばない。かなわない。

② □ に余る (意味) だまって見すごすことができないほどひどい。

③ □ が出る (意味) 予定していたお金では足りなくなる。

④ □ を巻く (意味) ひどく感心する。

⑤ □ をくわえる (意味) ほしいけれども手が出せず、むなしくながめている。

⑥ □ を並べる (意味) おたがいに同じような地位や力をもつ。

⑦ □ を折る (意味) そばから口を出し話のじゃまをしたり話す氣力をなくさせたりする。

⑧ □ をつつこむ (意味) 自分から進んでそのことに関係する。

⑨ □ をそろえる (意味) あるまとまった金額の全額をまとめる。

⑩ □ をくくる (意味) かくごをきめる。心がまえをかためる。

【目・肩・首・齒・耳・腰・舌・指・腹・足】